



- ①色とりどりのトルコギキョウ。代表的な花言葉は「優雅」、「希望」など。白、黄、ピンク、緑、青、紫など、豊富な品種がある。
- ②カーネーションの栽培も手掛ける。代表的な花言葉は「無垢で深い愛」。母の日に贈られることでも知られる。
- ③農業とふれあう活動も積極的に行う。11月には子どもたち向けに収穫体験を実施。
- ④芽かきなどの手入れは1つ1つ丁寧に。美しい花に育てるための重要な作業。
- ⑤熊本県花き品評会での受賞は、新聞でも紹介された。  
(写真は熊本日日新聞の令和2年11月18日朝刊)

じゅうにんといろ  
**住人十彩** 2021 January  
#9 ~立川 幸誉さん・麻美さん~



このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を紹介します。  
今回は花きを栽培されている立川幸誉さん・麻美さん(若洲)です。



**花き農家になるまで**

立川幸誉さん(40)と麻美さん(38)は8人家族。  
幸誉さんの両親と共に、トルコギキョウを中心に花き(観賞用の植物の総称)を栽培している。

幸誉さんは高校卒業後、福岡県の一般企業に就職。会社員を経験し、20歳から本格的に農業を始めた。

八代市出身の麻美さんは、高校卒業後、調理師として働いていた。結婚後も引き続き仕事をしてきたが、次女の誕生後に本格的に農業を始めた。

立川家が花き栽培を始めたのは平成24年から。それまではイグサやキャベツを栽培していたが、他の作物への転作を模索する中で、農業情報誌がきっかけで花きに興味を持ち、視察・研修などを経て本格的に花き栽培を始めたが、最初はなかなか思うようにいかず、試行錯誤の連続だった。

また、7月から8月にかけて行う土壌の太陽熱消毒や苗の定植などは、ビニールハウス内の温度が40℃を超えることもあり、大変な作業である。そんな苦労をした末に立派に育った花きを収穫できた時は、大きなやりがいを感じるという。

転作して8年を過ぎた現在は、花きの他に、ブロッコリーや麦などの栽培も手掛け、複合的な農業経営を行っている。

**熊本県花き品評会で最優秀賞**

トルコギキョウの生産量が全国2位を誇る熊本県だが、工夫を重ねて栽培している幸誉さん・麻美さんのものは、その中でも特に高い評価を得ており、花きの姿や揃い具合などを審査する熊本県花き品評会では、今年度、最優秀賞にあたる農林水産大臣賞を受賞した。

全国的にみても八代地域産のトルコギキョウは特に品質が良いとされ、立川さんのものも需要の多い北海道や関東、関西地方などに出荷される。

県内で見える機会は少ないが、将来は県内や八代地域向けにも出荷し、「育てた花を見てもらいたいです。」と話す2人。

花には、癒しやストレス軽減、緊張緩和など、様々な効果があるとされている。新型コロナウイルスの影響で「おうち時間」を過ごすことが多い中、家で「花のある生活」を楽しむ人は増えている。

**募集**

このコーナーでは、地域の頑張っている人や団体を募集しています。自薦・他薦は問いません。

詳しくは、お問い合わせください。

申込先：企画財政課 企画係  
☎0965-52-5850

メール：  
kouhou@hikawa.kumamoto.jp